

岡山への恩返し スクール開設

周囲の声受け5人制チーム結成

(1ページから続く)

を運営するようになったのか。これまでの経過を辿ってみたい。

大阪府出身の中島さんは天王寺高校を経て岡山大学薬学部に進学。同博士前期課程に進み、新規糖尿病治療薬を開発する研究に関わった。化学が好きで、将来は製薬会社で働きたいと考えて薬学領域での学びを深める一方、十代の頃から部活で親しんでいたバスケットボールの存在が次第に大きくなったという。

大学時代には部活を途中で辞めて、レベルの高い社会人のクラブチームに所属。岡山県の代表選手にも選ばれるほどの腕前で、「もっとやりたい、バスケットで行けるところまで行ってみたいと思う気持ちが次第に膨らんでいった」。大学院で1年過ごした後に休学し、各地のプロチームを回って入団テストを受けた。その結果、2011年に大阪エヴェッサで練習生だがプロ契約を獲得。薬剤師として週3日、大規模商業施設内の薬局で働きながら挑戦を続けた。

しかし、「プロの壁は高く通用しなかった。自分は一流の選手にはなれないと実感した」。翌年には退団して岡山に戻り、中島さんを含むバスケット好きの薬剤師3人で13年末に株式会社TRYHOOPを設立。岡山市内の倉庫を改装してコートを作り、5～15歳くらいの子どもの対象にバスケットボールを教えるスクール事業を14年3月から開始した。「岡山でバスケットがうまくなったので、岡山で何か恩返しをしたいと考えてスクールを始めた」と振り返る。

昼間は薬局薬剤師として働きつつ、夜間にバスケットボールを生徒に教える日々。スクール事業は好評で生徒の反応も良かった。「生徒が増えるうちに『なぜ岡山にはプロチームがないのか』『どう

やったらプロになれるか』と子どもから聞かれることが多くなった」。その思いに応えるために、当初の構想にはなかったが、プロチームを立ち上げることになったという。

3人制バスケットボールのチームを発足し、15年4月からプロリーグに参戦。当時は3人制リーグが発足したばかりで参入しやすく、1000万円あれば1年間チームを運営できるためハードルも低かった。中島さんは選手としても活躍し、チームは15年の参入以降毎年、上位の成績を残した。

3人制チームは存続しつつ、18年4月には5人制チーム「トライフープ岡山」を結成。要件を整備して19年9月からB3リーグに参戦した。「16年にBリーグが誕生し、岡山で参入するならそれは当社ではないかとの声が周囲で高まった。その声を受けて5人制への参入を決めた」。

3人制と5人制では運営規模が全く異なる。5人制への参入後、運営に必要な資金は2億円以上に膨らんだ。売上の柱はスクール事業、グッズ物販、チケット収入、スポンサー収入の四つ。経営基盤を強化しチームを成長させるには、売上の四分之三を占めるスポンサー収入をいかに増やすかが鍵になる。「自分達の取り組みが企業の活動にどうつながるのかを理解してもらい、熱意を伝えることが大事」と中島さん。認知度を高めて、来場者も増やしたい考えだ。

契約選手は現在15人。怪我のため試合への出場は控えているが、中島さんも選手としてチームに登録している。年齢は30代半ばに達し、現役生活はあとわずか。最適な引き際を模索したいという。



中島さんは週1回程度、薬局で店頭に立っている

が主な仕事だ。

現役の薬剤師という経歴はプロバスケットチームの経営にも生きている。現在のスポンサーは約110社。同じ医療系の仲間として薬局を経営する10社が加わるほか、津山中央病院などの医療機関もスポンサーに名を連ねる。

社会貢献事業として数年前から岡山市薬剤師会の薬物乱用防止キャンペーンに協賛し、連携して活動を展開している。「今後も医療分野と密接な関係を築き、試合がある日を医療デーとして健康を考える日にするなど、様々な医療系イベントとコラボしていきたい」と中島さんは言う。

岡山に会社を立ち上げ、バスケットボールのスクール事業を開始してから6年でここまで来た。「駆け抜けてきたというのが率直な感想。B3リーグのチームを運営しているなんて、当初からは想像もつかない。一歩進んだらまた新たな道が見えてきて、挑戦を続けてきた」とこれまでの道筋をたどる。

薬剤師でありながらプロバスケットチームを経営し、選手も務める中島さんは、全国的にも希有な存在だ。「各地で講演してこういう生き方や活動を多くの人に知ってもらうなど、自分にしかできないことを増やしたい。そうすることで薬剤師の地位向上にも寄与できればいい。一般の人と薬剤師をつなぐ存在でいたい」と将来の夢を語る。

薬局を運営 現場で実務も

異色の経歴 社会との架け橋に

プロバスケットチームの経営に力を注ぐ一方、中島さんは美作市にある「とよくに薬局」の運営も手がけている。トライフープ岡山のスポンサーでもある友愛薬局が15年に、後継者を探していたオーナーからとよくに薬局を買取り、その運営を中島さんに委託した。内科・外科診療所の近隣に位置する薬局

で、処方箋枚数は1日平均40枚。薬剤師3人が交替しながら現場に立ち、中島さんも週1回程度薬局に出向いて薬剤師として実務を担当する。

このほか、別のスポンサー企業の依頼を受けて、漢方薬の通信販売を主体とする薬局での週1回の勤務も始まった。顧客からの疑義に電話で応答するの

薬学生のための求人情報サイト

ファーネット2020&2021&2022



病院求人件数

全国の病院・薬局を300件以上掲載!

<https://www.pha-net.jp/>

ファーネット

検索

プレOPEN中!
先行登録受付

ナンバーワン!

今すぐ
登録!



株式会社ユニヴ UNIV CO., Inc.
<http://www.univ.co.jp>

大阪本社 〒530-0047
東京支社 〒107-0052

大阪市北区西天満 3-4-15 公冠ビル 2F
東京都港区赤坂 3-2-2 日経第 24 ビル 7F

TEL: 06-6361-3601
TEL: 03-5549-2420

名古屋支社 〒450-0003
九州支社 〒810-0001

名古屋市中央区名駅南 1-23-14 KSE 名古屋ビル 7F
福岡市中央区天神 4-6-7 天神クリスタルビル 14F

TEL: 052-533-0361
TEL: 092-721-1027

